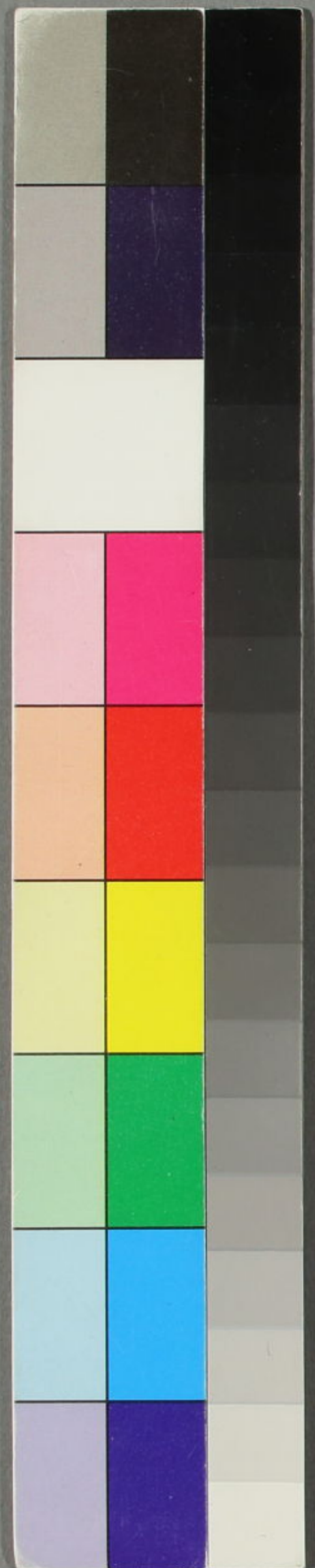


淡窓六種

迂言

卷之五



迂言

兵農四

武備ハ國ヲ保ツノ要務ニメ、武門ニテハ、太平ト
雖レ、片時モ之ヲ忘レス、苟モ武家ニ生タル者ハ、
三載ノ小兒ト雖レ、亦武備ノ大切ナルヲ知ル、
然レ、今時諸侯ノ國、上下共ニ困窮ニテ、實ハ武
備ノ事ニハ及サス、今時ノ困窮ヲ免ル、一、大敵
ヨリ圍レタル中ヲ出レトスルカ如シ、逆モ亂世
ノ一ナト、慮ルニ暇アラサルナリ、如何ニモ 上

ノ御武運盛ナルヲナレハ、亂世ト云フ、アルヘキ
ニモ非サレト、關原ノ後、太平トハ申シナカテ、少
少ノ事ハナキニ非ス、前ニ大阪ノ役アリ、後ニ嶋
原ノ役アリ、神祖ノ御聖徳ト、大猷院殿ノ英
武ナルト雖ト、如是背叛ノ徒アルヲ免レス、左
スレハ、此後モ右兩事ノ如キヲ有シキトモ云
難シ、然レハ、武備ハ怠ル可ラサルヲナリ、今時諸
國共ニ兵備空乏ニシテ、合戰ニ出ル人甚少キ事、先
哲ノ論明々タリ、寡不敵衆ト、天下ノ常理ナレハ、

イカニ武士道ヲ立ル志アリト、戰士少クテハ、大
敵ニ勝テハ、逆モ不能ナリ、亂世ハ、小國ハ大國ニ
併セラレ、弱國ハ強國ニ役セラレ、同列ノ諸侯モ、
後ハ君臣ノ勢ヲナスニ至ル、コレ小國ノ武士皆
腰拔タルニハ非ス、何分ニモ、少キハ多キニ敵セ
サルナリ、故ニ武士ノ意氣地ノミヲ張ツメテモ、
戰士ヲ多クスルノ術ナクテハ、亂世ニハ、人ニ降
參スルヨリ外ハナキナリ、扱戰士ヲ多セント思
ハ、農兵ヲ用ルニ若クハナシ、抑周ノ時、農兵ノ

法アリシハ、井田ノ制ニテ、十ガ一ノ賦税ヲ納メ
タル時ノナリ、今我邦ノ税ハ、大抵十ニ一四五
ヲ税スルト云程ナレハ、和漢古今未曾有ノ重斂
ナリ、カ、ル重斂ヲ出サセ、其上農夫ヲ令戦ニ出
スト云フ、決ノ行フ可ラサルナリ、因テ此一段
ハ、前ニ述タル如ク、武士ヲ知行所ニヲキ、其中ノ
百姓ヲ、主人ヨリ家隸分ニメ、武用ニ立ル様ニス
ヘキナリ、左スレハ、古農兵ノ如ク、是非氏家々ニ
割リ付ルニ及ハス、主從ノ相談ニテ、イカ様ニモ

戦ニ出ル者ハ多クナルヘキナリ、臣下ノ知行所
ニ非メ、直ニ君ニ屬スル者モ亦如此ニシテ、其人
ヲ募リ、平日ハ農工ノ業ヲ務メ、事アル時ハ、歩卒
ニナリテ戦ニ出ル様ニスヘシ、其者ニハ少々ノ
格式ヲ許シ、又ハ徭役ヲ免スル様ニセハ、好テナ
ル者出來スヘキナリ、
古ハ農夫ノミヲ兵卒ニ用ヒタレト、今ハ夫レニ
限ル可ラス、農ハ重斂ニ苦ミタル時節ト云ヒ、且
又農隙ノ時ヲ伺テ用ユルナレハ、不便利ノ事多

シ、故ニ博ク人ヲ取り用ヘキナリ、四民ノ内、但商
ノミハ何十萬アリトモ、戰場ニハ用ヒ難シ、其他
ハ教ニヨリテ兵卒ノ用ニナルヘキナリ、百工ノ
タクヒ、隨分取用ユヘシ、獵師ナトハ、尤宜シカル
ヘシ、醫師、社家、山伏、皆刀劍ヲ帶テ、武士ニ擬スル
モノナレハ、是亦取り用ユヘシ、僧モ時宜ニヨリ
テハ取り用ユヘシ、凡如此ノ類皆相應ニ格式ヲ
與ヘ、其訣ヲ立レハ、面目ノ一ニ思ヒ、戰場ノ役ヲ
モ辭セサルナリ、是兵卒ヲ多クスルノ法ニ、

或曰、武士ニモ非モノヲカリアツメ、戰場ニ出シ
タリトテ、何ノ用ニカ立可キ、答曰、然ラハ、吾子、今
ノ武士、一々戰場ノ用ニ立ツト云フヲ受合ヘシ
ヤ、太平數百年、今ノ天下ニ、一人モ戰場ニ出タル
者ハナシ、用ニ立ト立サルハ、其時ニ至ラサレハ、
知り難シ、只戰場ニ出タルトキ、一働キセント覺
悟ヲキメタル者ヲ、用ニ立ト云ヒ、其覺悟ナキヲ
用ニ不立トスルヨリ外ハナシ、左スレハ、武士ニ
非サル者モ、戰場ニ出ルニ事決シ、毎年講武場ニ

出ル様ニナレハ、自然ト其心得ニナリ、今ノ歩卒
ナトノ覺悟タケノヲハ、備ルナリ、又亂世ニナリ
タラハ、上下一同、合戰而已ニナル故、治世ニ定メ
タル人數ニ不限、戰士モ追々増スヘシ、只國ノ強
ト弱トハ、治世ヨリノ風儀ニヨルナリ、百姓職人
ナトモ、合戰ニ出ル者多レハ、國ノ風俗、自然ト武
氣ヲ含ミ、強毅雄壯ノ態アルヘシ、是亂世ノ前藥
ニハ、第一ノ良方ナリ、夫一國ヲ以テ、人ノ一身ニ
喻レハ、君ハ首ノ如ク、臣ハ腹ノ如ク、民ハ足ノ如

シ、人ノ心腹肥滿スト雖、足弱キ者ハ倒レヤス
シ、國モ亦然リ、民弱キトキハ覆リ易シ、民ヲ強ス
ルノ方、農兵ニ若クハナシ、漢土後世封建スタレ
テ、農兵ヤミ、國体柔弱ニナリテ、遂ニ北狄ニ併セ
ラレタリ、我邦今幸ニ封建ノ制トナレリ、然ル
ニ軍兵ハ、郡縣ノ制ニヨリテ、養兵ノ法ヲ用ル、
憾ムヘキノ至ナリ、是世祿ノ弊ニメ、祿ヲ食ム者
多ニヨリ、賦稅亦多ラサルヲ得ス、賦稅過多ナ
レハ、農夫戰ニ用ユ可ラサルナリ、今我說ハ、養兵

ヲ主トシ、民兵ヲ兼用スルナリ、此分ニテモ、民ノ
風俗強クナルニ、若平時此法ヲ用ヒス、事急ナル
ニ及テ、軍兵少キヲ患ヒ、俄ニ民ヲ募リテ兵トナ
サハ、乃吾子カ所謂、何ノ用ニカ立ヘキト云、説確
當トスヘシ、

武家ノ出替リ奉公人、軍用ニ立チカタキトハ、先
哲詳ヒラカニ之ヲ論セリ、是ハ全ク大平ノカサ
リモノナリ、今時合戦ト云フ、容易ニ有ヘキトニ
アラサレハ、先ツ其分ニ推シ移リテモ急害ナシ、

然レ氏、今時武家貧窮最中ニ、五兩七兩ツ、ノ給
金ヲ費ヤシテ、飾リモノヲ供ユルト、無用ノトニ
故ニ前ニ僕從ノ數ヲ減スルト云リ、僕從減セ
ハ、奉公人減シテ、費ハフキ、勝手宜シカルヘキナ
リ、猶又其上ニ一ノ法アリ、家中ノ子弟、次男以下
十五六ニ及ヒタラハ、他家ニツカワシテ、若黨ト
ナスヘキナリ、左スレハ、俸禄少ナキモノハ、家口
減シテ便利ナリ、引キ受タルモノモ、給金ヲツカ
ワスニ及ハス、衣食ヲ與ヘタル分ニテ宜シ、前ニ

論セシ如ク、家老ノ子ト云ヘ氏、目見ヘセサル中
ハ、親ノ家隸同前ニテ、七等ニ列シ、青衣ヲキルト
定ムル時ハ、家中ノ若黨ハ、皆青衣ナレハ、親ノ家
ニ居テモ、他家ニ行テモ、格式ニ高下ナシ、給金ヲ
取ラス、奉公人ト訣異ナレハ、他家ニアル中ニモ、
學校ニ出テ、文武ノ兩藝ヲハ學フヘキナリ、其内
ニ養子ノトコロ定マレハ、王家ヲ引キ取ツテ、此
ニ行キ、其時ハ、故主ト同格ニモ、又其上席ニモナ
ルナリ、主從ノ挨拶ハ、古禮ニ、他人ヲ拜メ父トシ、

兄トスルヲアリ、故ニ其例ニ隨ヒ、父兄子弟ノ挨
拶ニテ宜シカルヘシ、左スレハ、小身ノ子、大身ヲ
父兄分ニスルヲ、後年ノ爲ニモ心強キヲナリ、大
身ハ子弟ヲ他家ニツカハサス氏、其家ニテ家隸
分ニメ召使ヘシ、下位ニ置テ、下情ニ通セシメ、又
鄙事ニ習ハシムルヲ、其身ノ利益ナリ、凡直參陪
臣ノ差別嚴ニスクルヲ、今時ノ弊ナリ、大身ハ事
多クレハ、一身ニテ奉公ハ勤ラス、其臣ノカヲ借
リテ勤ムルヲナレハ、陪臣ノスル事モ、皆公用ニ

アラサルハナシ、故ニ直陪ノ處ヲ混シテ、只位級ノ高下ヲ分ツ而已ニメ置ヘキナリ、凡家中ノ奉公人、皆君ト主トヲ分チ、君ト云ハ、國君ニメ、己カタメニ世々ノ君ナリ、主ハ、居家ノ主人ニシテ其家ニアル間ノ主ナリト定ムヘシ、今時ノ奉公人、多ハ他方ノ欠落モノ、或ハ町人百姓ノ次男三男、遊蕩ニシテ、父兄親族ニ容ラレサルモノ、家中ニ奉公ニ出ルナリ、之ヲ止テ、武士ノ素姓正キモノ用ル、双方ノタメ宜キモノ也。

武ヲ講スル、ハ、國ノ大事ナリ、舊例ナク、儀ニ願ヒ立テ、是ヲ取り行フヘキナリ、戰士ヲ多クスルノ法ヲ用ユル時ハ、只今マテ軍勢一萬アリシ處モ、二萬トナルヘシ、因テ之ヲニツニ分チ、夏ト冬ト、兩度是ヲ試ムルナリ、大畧ハ、農事ノ妨ニナラサル時ニ、一萬ノ兵ヲ地ヲ擇ンテ之ヲ聚メ、其部伍ヲ分チ、甲冑旗指物ノ類、一々真ノ合戦ニ趣ク時ノ通りニメ、駆引ヲ試ムヘシ、冬ハ夏ココロミタル者ハ出ルニ及ハス、兼テ學校ニ於テ、

軍學ヲ講スルヲナレハ、將帥ノ任ニ當ル者ハ、皆
軍學ニ通セシメ、歩卒ノ類ハ、刺撃ノ法ヲ知ラシ
ムヘキニ、
公戰ト私闘ト、其事同シカラス、今時武家ニ講ス
ル處、皆私闘ノ法ナリ、故ニ兩度武ヲ講スルノ舉
ナクテハ、軍陳ノ事ニ用ユヘカラス、ヨロヒヲキ
セ、馬ニノセ、大勢出逢シメテ、互ニ相夕、キ合セ
テ、之ヲ試ムヘキナリ、此事ハ、先哲既ニ論セシ
ナレハ、委シク言ニ及ハス、

今世ノ武家隣家ニ行ニモ、槍ヲ持セ、具足ヲ荷ハ
セ、數十ノ僕從ヲ召シ連ル、一治世ニ在テ、武備
ヲ忘レヌト云フ申シ立テナレ、實ハ誇張ノ具
ニノ、無用ノ費ヘ莫大ナリ、故ニ平日ハ一切之ヲ
除キテ、其代ニ講武ノ場ニ於テ、之ヲ詳ニスヘシ、
家老以下、皆知行高ニ應メ人ヲ召シ連ルヘシ、其
兵卒當前ヨリ多ク、器伏堅固ニメ、調鍊法ノ如ク
ナルハ、主人ノ覺悟ヨロシキナリ、兵卒少ク器伏
弊敗シ、調鍊法ノ如クナルヲ能ハサルハ、主人ノ

覺悟アシキナリ、此處ニテ甲乙ヲ分チ、褒賞ヲモ
加ヘ、戒勵ヲモ加フヘシ、如此ナラハ、何ソ必シモ
平日多クノ僕從ヲ召シ連レテ、無用ノ費ヲナス
コトヲ用イニヤ、

今時ノ賦税甚タ重ク、古今ニ類ナシ、農ハ國ノ本
ナルニ、本ヲ苦メテ末ヲ養フコト、宜ニ非ス、然レ、税
ヲ減スルト云フ、今時ノ勢ニテハ爲シ難キトコ
ロナリ、唯一切ノ徭役、コト々々ク田地ニ掛ルト
コロヲ、他事ニウツスハ行ヘキコトナリ、古租庸調

ノ法アリ、田アルハ租ヲ出シ、人アレハ庸ヲ出シ、
家アレハ調ヲ出ス、今ノ處ニテハ、庸モ田地ニ掛
ル道理ナリ、此分ヲ人別ニ配當シテ出サシム、田
ニ掛ル所ヲ減スヘキナリ、譬ヘハ、男子一人ニ付、
二十ヨリ五十マテノ者、一年ニ十日ノ公役ヲ勤
ト立テ、其錢ヲ取立、其錢ヲ以テ、人夫ヲ雇ヒ出シ
テ用ユヘシ、公役ト申ス内、實ノ公役アリ、村役ア
リ、ソレハ、部ヲ分チ、徭役錢ヲ其役筋ニ預リ置キ、
出入ニ私ナキ様ニスベシ、其公役錢ヲ出者ハ、軍

役ニ出ル者ヲ除ヒテ、其他ハ一切取立ヘレ、軍役ニ供スル者ハ、一年一度ノ講武ノ時ハ、必城下ニ出ルヲナレハ、前後數日ノヒマヲ費スヘシ、故ニ之レヲ除クナリ、町人ヲ始トシテ、一切ノ遊民、田地ヲモタスシテ、結構ニ生活ヲスル者多シ、如此ノ類ニ、錢ヲ出サシメテ、農夫ノ肩ヲヤスムル様ニスヘキナリ、

出家スル者ハ、金ヲ出シテ度牒ヲ申シ受ルヲ、和漢ノ古例ナリ、今ハ其ノ方己ニ廢セリ、是庸ノ法

明カナラサルニヨレリ、今庸法ヲ用ル氏ハ、度牒ノ法モ再興スヘキ理ナリ、但シ僧モ宗旨ニヨリ、又山伏神主ハ、軍役ニ共スレハ、度牒ニ及ハス、軍役ニ出サルモノハ、徭役錢ヲ出サシムルヘシ、其軍役ニツカイカタク、又徭役錢ヲモ出サシメ難キハ、何トカ度牒ニ類シタル法アルヘキヲナリ、凡僧ヲ度スルヲ、ミタリニスヘカラス、必其數ヲ限ルヘシ、遊民多ケレハ、國疲敝スルヲハ、三尺ノ童子モ知リタルヲナレハ、此ニ詳カニセス、古ヘ

土地人民政事ヲ諸侯ノ三寶ト云ヘリ、今ノ人ハ、
唯土地ヲ重ニスルヲ知テ、一寸ノ土地ト雖、
之レヲ費ヤサス、人民ニ至ツテハ、之ヲ惜ムヲ
知ラス、良民變シテ遊民トナルハ、人ヲ棄ルノ理
ナリ、然ルヲ、彼方ノ勝手ニマカスルヲ、米穀ノ生
スル田地ヲ棄テ、草ノ中ニ埋モラシムルカ如シ、
何ソソレ思ハサルノ甚シキヤ、
庸ノ法、古法ノ如クニスレハ、男女共ニアルヲニ
テ、其制極メテ詳ラカナリ、前ニ述タル處ハ、夕、

田地ノ公役ヲ減ンカタメニ、其一端ヲ云者ナリ
若シ全ク古法ノ通りヲ行ヒタラハ、上ノ利益ハ
大ニ有ヘケレ、下民重斂ニ苦シミタル上ニ、又
外ノヲ加ハリテハ、益窮スヘキナリ、若シ如是ノ
ヲ起シテ、十ヶ四ノ税ヲ、三ニモ二ニモ減スル
ト申スヲナラハ、大ニ良法ナルヘシ、然レ、
ノヲニ非ス、姑ク舊貫ニ因ルニハシカス、
山林川澤ニ賦アレ、其入ルトコロ少ナシ、之ヲ
家中ノ禄ニ賜ヒタラハ、宜シカルヘキナリ、縦ヘ

ハ、千石百石ヲ賜ハルトコロヲ、山一ツニツヲ賜
ヒ、其生スル處ノ材木ヲ其有トナシ、年々賣出ス
トコロノ價ヒヲ積リテ、百石ニモ千石ニモアツ
ヘシ、川モ亦然リ、魚鱸ノ數ヲ積リ、地行高ニ應ス
ヘシ、此ノ如クスレハ、上ヨリ禄米出ルトコロ少
クシテ、倉廩富ムヘキナリ、又山澤ノ利、未タ十分
ニ地カヲ盡サル所多シ、ソレヲ人ニ與ヘ、我物ト
ノ、工夫ヲ付サセ、或ハナキ材木ヲ仕立テ、或ハ材
木運送不便利ノ處ハ、炭ヲヤキ、又ハ茸類ヲ仕立

ルナト世ハ、地カ十分ニ出ツヘシ、サレバ、是小民
ノ利ヲ奪フナレハ、施シ行ヒカタシ、若賦税ヲ減
メ、農夫ヲ利シ、今迄田地ヲ作ラサリシ者モ、皆農
務ヲ事トスル様ニナシ、其賦税ヲ減シタル代リ
ニ、庸ノ方ヲ建立シ、且山澤ノ利ヲ上ニ台ル様ニ
セハ宜シカルヘシ、唯是改革中ノ大端ニメ、容易
ノ事ニ非ス、

迂言兵農坤上終

迂言

學制五

夫賢ヲ進メ不肖ヲ退クルハ國ヲ治ムルノ本ニ
シテ賢者用ラルレハ國興リ不肖者用ラルレハ
國七ルヲ古今ノ通理人ノ偏ク知ル處ナリ然レ
氏今時封建ノ制士大夫タルモノ皆其祿ヲ世々
ニスル習ナレハ世祿ノ家ニ生レタルモノハ不
肖ナリト雖氏退ク難シ又下ニアルノ賢者ヲ舉
ントシテモ上ノ賦祿限リアレハ世祿ノ外ニ新

家ヲ増ス、上ノカニモ及ヒ難キ所ナリ、此ヲ以テ止ム、一ヲ得ス、不肖ナカラモ、舊臣ノ家ニ委任シテ、推遷ル、一天下一同ノ一ナリ、畢竟舊家ヲ廢スルト云、一致シ難キ一ナレハ、只舊家ノ子弟タルモノヲ教育シテ、善ニ赴キ、惡ヲ棄シメ、國家ノ用ニ供スルヨリ外ハナシ、然ラハ、人才ヲ教育スル、一今時諸侯ノ國ニ於テ、第一ノ要務ナリ、人才ヲ教育スルノ法、學校ニ如ハナシ、但シ前ニ述タル如ク、今時學校ノ制、宜ヲ得サルカ故ニ、教養ノ

術行届カス、古人學ヲ設ルノ本意ヲ失ヘルモノナリ、故ニ今竊ニ愚按ヲ以テ、古禮ヲカレカヘ、學校ノ制ヲ改メ建ル、一ヲ左ニ録ス、

易ニ、童牛之レ牯スト云、一アリ、コレハ、幼少ノモノヲ教育スルニ付テノ喻ヘナリ、童牛トハ、初生ノ牛、未タ角ヲ生セサルナリ、牯トハ角ニハムルホニシテ、物ニ觸レツク、一ナキヨフニスル器ナリ、牛ノ未タ角ヲ生セサル内ニ、牯ヲハメ置クヘシ、サスレハ、物ニ觸ル、一ヲ初ヨリ知ラス、若シ角

ヲ生シタル後ニ、特ヲ用ヒタリ、ソノ詮ナキナ
リ、人ヲ教ルモ亦此ノ如シ、幼少ノ内ニ、早ク教ユ
ヘシトナリ、初ニ論セシ今時ノ六弊ノ如キ、二百
年來ノ風習、積リ々々生セシナレハ、今明君
英王アリテ、一旦其弊ヲ改タマフ、人情驚キ疑
テ心服セス、カクスル内ニ、君ノ世カハレハ、又本
ノ通ニナルナリ、只學校ヲ設ケテ、家中ノ子弟ヲ
其中ニ遊ハシメ、幼少ヨリノ見聞スル所、一切世
俗ノ流弊ニ異ナルヲノミナレハ、自然ト、其中ニ

化メ、六弊モ改ムル、凡ナク止ムヘキナリ、
學校ノ制ヲ改ムル、他ニ非ス、古ノ時、世子學ニ
齒スルノ禮アリ、其事委クハ禮記ニ見タリ、故ニ
此ニ載セス、ソノ大略ヲ申サハ、國君ノ嫡子ヲ學
校ニ出シテ、國人ト一同ニモノヲ學ハシメ、尊卑
ノ差別ヲセス、群臣諸民ノ子ト打混シテ、只年齡
ノ長シタルモノヲ上座ニヲクナリ、サスレハ、
世子タル人、自然ト、賢者ヲ尊ヒ、長者ニ讓ノ道ヲ
知玉ヒ、成長ノ後、君ノ位ニ居玉ヒテモ、必ス自ラ

高フラス、賢者ノ言ヲ用ヒ玉フナリ、ソノ處ヲ禮
記ニ、知爲人臣、然後可以爲人君、知事人、然後能使
人トアリ、君ノ子、此ノ如クナレハ、群臣ノ子ハ勿
論ナリ、今諸國ノ學校、世子并諸公子、出席シ玉フ
一、格別聞及ハス、大方ハ師ヲ招テ教ヲ受玉ヘリ、
又家中ノ子弟出席スルモノハ、家格ニ因リテ、座
席ヲ序テ、長幼ヲ論セス、コレソノ大本已ニ違ヒ
タリ、其誓古スル所モ、十ニ七八、素讀ヲシタルノ
ミナリ、又間ニ久ク學フモノモアレヒ、只訓詁ヲ

サカシ、詩文ヲ作ルヲ事トシ、有用ノ學ヲ務メス、
之ニ由テ、學技ノ教モ、形ノミノ一ニナリテ、人才
ノ生育スルナト、嘗テナキナリ、今古制ニヨリ
テ、長幼ノ序ヲ正シ、尚又誓古ノ筋モ、無用ヲ去テ
有用ニ就キ、而後ニ賞罰黜陟ヲ其間ニ加ヘハ風
習大ニ改リ、久ク待スシテ、一國ノ人才斐然トシ
テ、大祿世家ニ尸位素餐ノモノナク、下ニアルノ
賢才モ、相應ニ進路ヲ得、且從前ノ弊俗一洗スヘ
キナリ、

學校ノ制ハ、文武ノ兩學ヲ分テ、之ヲ建ツヘキナ
リ文學ニテハ、經學、歷史學、諸子學、文章學、兵學、醫
學、天文學、和學、職原學、蘭學、書學、數學、諸禮學ナト、
一切文字言語ヲ以テスル事ノ、國用ニ供スヘキ
一ハ、皆教官ヲ置テ、科目ヲ分テ研究スヘシ武學
ノ一ハ、後ニ載タル故ニ、此ニ出サス、學校ニ出テ
學フ所ノ生員ハ、諸公子ヲ始トメ、家老ヨリ步卒
迄ノ子弟、十歳ヨリ二十四五歳ニテ、部屋栖ノ者
ハ、不殘出席セシムヘシ、教官ノ上ニ奉行一人ヲ

立、文武ノ兩校ヲ併セ掌ラシムヘシ、是ハ至テ重
任ナレハ、家老ノ内ヨリ人ヲ擇テ命スヘシ、凡國
中家老ヨリ步卒迄ノ子弟、十歳ニ及ヒタラハ、父
兄ヨリ奉行ノ宅ニ攜行キ、相見セシメ、以後其支
配ニ屬スヘシ、奉行ヨリ名前ヲ帳ニ録メ、上ニ達
シ、其人生長シテ、家督相續スルニ至テ、始テ其支
配ヲ離シ、其帳ヲ消スヘシ、扱其人、誓古ノ次第、藝
術ノ差等、皆教官ヨリ奉行ニ達シ、著帳又ヘシ、尚
又月々年々ニ考訂メ、差等ノ進ムニ隨ヒ、其事ヲ

録シ、且時々君ニ言上スヘシ、又奉行タル人ハ、唯
藝術ノ高下ヲ考ル而已ニハ非ス、生員ヲハ時々
相見メ、目ニハ其容貌ヲ視、耳ニハ其言語ヲ聽、進
退周旋ノ度、輕重疾徐ノ氣象ヲ知ルヘシ、且奉行
ハ大身ニテ、裨官屬吏多レハ、之ニ命メ、生員家ニ
在ル時ノ行狀ヲ探セ、父兄ニ孝悌ナリヤ、朋輩ニ
和順ナリヤ、酒狂淫亂等ノ行狀、ナキヤ、有リヤ、一
々委ク取調ヘ、是モ亦帳ニ控ヘ置ヘシ、生員成長
ノ上、其家ヨリ家督ノ願ヒ、又他家ヨリ養子ノ願

ヲ差出ス時ハ、教官ト奉行トニ、奧判ヲ頼ムヘシ、
教官ヨリハ、文武兩藝ノ差等、此位ニテハ外リタ
ルヲ、相違ナキ由ヲ書シ、奉行ヨリハ、其人柄迄モ
見届ケタル由ヲ書メ、而後判ヲ加ヘシ、其高下ニ
ヨリテ、文句ニ差等ヲ立ツヘシ、若一向取ルヘキ
ヲナクハ、判ヲ辭退スヘシ、虚ヲカキテ君ヲ欺ク
可ラス、

入學誓古之次第ハ、初ニ素讀ヲ授カルヘシ、其傍
ニ、手跡ト、諸禮ト、數術トヲ學フヘシ、素讀ノ中ニ

於テ、上中下三等ヲ分チ、四書、五經、小學、近思錄等ノ物、已ニ畢リ、誦讀滯ルヲナクハ、即ニ等ナリ、其上ハ輪讀ヲナサシムヘシ、其傍ニ講釋ヲ聽シムヘシ、輪讀ノ方、左傳、史記等ノ未授書ヲ、輪次ヲ以テ讀シメ、音聲朗暢ニメ、句讀无誤ハ、輪讀ノ上等ナリ、其上、輪講ヲセシムヘシ、經史ノ類ヲ、列坐ノ輪次ニ講シ、言語明白ニメ、義理通達セハ、輪講ノ上等ナリ、其上ハ文章ヲ試ムヘシ、漢文ハ、今時武門ニテ公事ニ用ヒス、且之ヲ能スルヲ容易ニ

アラス、故ニ文章官ノ外、通例ノ人ハ、俗文ヲ學ビムヘシ、其法ハ、教官ヨリ席上ニライテ題ヲ出スヘシ、或ハ訴訟ノ判斷、或ハ隣國トノ扞合、或ハ公邊ノ願書、或ハ下方ニ向テノ告諭ナト、少シツ、意味ノ六ツカシキヲ設ケテ、問ヲ起シ、當人ノ存シヨリヲ書シムヘシ、其文ノ道理至極シテ、文句能行ト、キ、見ル人感服スル程ニアレハ、文ノ上等ナリ、右素讀ヨリ文章ノ誓古マテ、十一二歳ヨリ學ヒテ、速カナルハ五六年、晚キハ八九年、大

抵二十歳ヨリ内ニ、修行成就スヘシ、通例ノ學問
ハ、先ツ其分ニテスムヘキナリ、又歩士歩卒ナト、
格別才氣モナク、身分相應ノコトヲセント思フ者
ハ、ソレマテノ誓古ニモ及ハサルナリ、但シ士分
以上ノ人ハ、右タケノコトハ、有タキモノナリ、其上
ノコトハ、學問ヲ職分トスル者ニアラサレハ、知ル
ニ及ハサルナリ、藝術ニ終身ヲ抛テ、其精微ニ入
ルコトヲ求ルハ、文武共ニ、師範役ノ者ハ然ルヘシ、
其他ノ者ハ無用ノコトナリ、

儒者教官ニ任スルモノハ、科目ヲ分テ、其職掌ヲ
守ルヘキコトナリ、前ニ述タル經學ヨリ以下ノ十
餘件、各其長スル所ニ從ヒ、或ハ一二、或ハ三四ニ
兼通スヘシ、一人ニテ、一切ノ事ニ通スルコト、力及
ハサル所ナリ、強テ之ヲスル時ハ、其事未熟ニシ
テ用カズシ、今時ノ學弊ハ、科目ヲ分ツコトナキニ
ヨリテ、人ノ知タルコトヲ知ラズハ、耻トナル故ニ、
競テ同シ道ヲ走ル、ヨツテ我知タルコトハ人モ知
ル、人ノ知ヌコトハ我モ知ラス、儒者百人有トモ、一

人ト同シナリ、是皆學問ヲ己カ名ヲ成ス爲ニ
シテ、國用ニ供スルト云心ナキ故ナリ、是ハ上ヨ
リ科目ヲ分ツテ、人ヲ用ヒ、其長スル所ヲ取テ、其
短ヲセメヌ様ニシタマヘハ、儒者モマタ其心得
ヲナスナリ、

諸公子ヨリ一家中ノ子弟、日々學校ニ往來スル
ノ法式ヲ申サハ、先ツ公子并ニ家老ノ子弟ハ、家
隸ノ内ニ素讀ヲ授クルホトノ者ハ、有ルナレ
ハ、始メハ其者ヨリ授カルヘシ、大畧ハ、十歳ヨリ

素讀ヲハシメ、十二歳ニモイタラハ、素讀ハスム
ヘキナリ、其上ニテ學校ニ入ルトモ、苦カラサル
ナリ、但シ家ニテ句讀ヲサツカルトキ、家隸ナ
レハトテ、必ス無禮ノ所作アルヘカラス、教ル者
ヲ上座ニヨキ、禮敬ヲ盡シテ學フ、其父兄ヨリ
堅ク命シ玉フヘキナリ、叔學校ニイタルトキハ、
公子トイヘハ、美服シ給フヘカラス、從者多クシ
テ、兩人ニスクヘカラス、途中歩行シテ、人ヲ避シ
ムル、有ヘカラス、古ノ禮、爲人子者坐不中、與行

不中路ト云フアリテ、親アル者ハ其身ヲ卑下シテ、親ノ所作ニ類セヌ様ニスルモノナリ、人君ノ子ハ別シテノ_レニ、國ニニツノ君ナシ、君ノ子ナレハトテ、カリソメニモ、君ニ擬シタル振舞シ給フヘカラス、學館ニ至ラハ、門外ニ長屋アルニ從者ヲ息マセ、其身獨リ門ニ入給フヘシ、從者ヲ門内ニ入ルヘカラス、學校ニ大小ノ二門アリ、大門ハ國君奉行、教官ノ_レ、其内ニ出入シテ、生員ハ公子ヨリ以下、皆小門ヨリ出入アルヘシ、玄關モ教

官ハ本玄關ヨリ通り、各其詰間ニ赴クヘシ、生員ハ、小玄關ヨリ進ミ、生員ノ席ニ列スヘシ、教官ノ中ニ、威儀監ト云モノヲ立置、生員ヲ導ヒテ、浴式ニ從ハ_レムル様ニスヘシ、生員ノ坐席ノ次第、文章生ヲ上トシ、次ハ輪講生、次ハ輪讀生、次ハ素讀生ト、居間ヲ限リ、公子ト雖凡、相當ノ席ニヲクヘシ、一日ニ一度、生員教官ニ禮謁スヘシ、コレモ、科目ノ高下ニ從ヒ、其序ヲ分チ、三四段トナスヘシ、國君奉行學ニ至ルノトキ、又其法ニ從ツテ禮謁

ヲ受ヘシ、長幼ヲ序ツルヲハ、其列同シケレハ、年
齡長シタル者ヲ上座トスヘシ、又時アリテハ、階
級ヲ分タス、生員ヲ打テ渾シテ、年長ノ者ヲ上ニ
シク様ニイタシ、長幼ノ義ヲ明スヘキナリ、但シ
生員ノ内、諸公子ハ黒衣、大身ノ子弟目見ヘスミ
タル者ハ黄衣、其他ハ一切青衣ナリ、故ニ同列ニ
アリト雖モ、身柄ノ貴賤ハ明ナリ、己ヨリ貴キ人
ハ、下座ニアリトモ、侮ルヲハナキナリ、又世子學
ニ齒スルヲ、何分ニモ人ノ耳目ヲ驚スヲニテ、行

ヒ難シトナラハ、世子一人ヲ除テ、他ノ諸公子ハ
是非汰ノ如クニ有タキナリ、然ラサレハ、家老以
下諸大身ノ子ノ則ニナラス、復古ノ舉モ、詮ナキ
ヲニナルナリ、
輪講ヲ試ルハ、唯其書籍ノ文面ニ通スルト、不通
トヲ知ルカ爲メ而已ニハ非ス、講者言語明白ニ
シ、譬喻親切ニ、イカニモ、聽者ノ肺肝ニ通徹メ、尤
ニ覺ルハ、辨セアル故ナリ、如此者ハ成長ノ後ハ、
四方ニ使メ、君命ヲ不辱ノ徒ナルヘシ、又言語拙

訥ニメ、論辨明白ナラス、聽人茫然タルハ、其人辨
才ナキナリ、如此ハ、假令イ書面ノ義ニ誤ナクモ、
實フニ足ラス、文章ニ至テハ、人ノ見識ノ高下、才
智ノ長短、殘ル所ナク、其内ニ見ワル、者ナリ、其
處ニ至テハ、漢文和文ノ差別ハナシ、故ニ日用ニ
ナル和文ヲ試ルナリ、是全ク其人ノ才智見識ア
リテ、事ニ處スルノ所ヲ見ンカ爲ナリ、古ヘ身言
書判ノ四ツヲ以テ、人ヲ取リシナトノ遺汰ニヨ
ル所ナリ、文ノ試ヲ數々スレハ、其人ノ才不才ハ、

鏡ヲ以テ照スヨリモ明ナリ、是又他日其人ヲ取
用ルニ付テノ心得ナリ、故ニ奉行ノ任ハ、人ヲ育
スルニ始リ、人ヲ知ルニ終ルナリ、人ヲ育レハ、國
ニ賢才多クナリ、人ヲ知レハ、職任各其宜ヲ得ル
ナリ、若唯生員ノ勤惰ヲ督スルヲ、任ト思ヒタラ
ハ、大ニ本意ヲ失ヘリ、前ニ所謂重任トハ、其處ヲ
云ナリ、

學校誓古ノ次第、素讀ヨリ文章ニ至ル迄ハ、一統
ノ一ナリ、其上ハ、人々ノ志ニ隨フヘシ、或ハ經義

ヲ研究シ、或ハ、百家ヲ博覧シ、或ハ詩漢文ヲ學ヒ、
或ハ和學蠻學ナト、各其師ニ隨フヘシ、若シ右体
ノ一好ム處無クハ、一切セストモ可ナリ、但シ閑
隙ニ書ヲ見ル一ハ、士分以上ノ人ハ、生涯廢スヘ
カラス、前ニモ申セシ如ク、正シキ人ニテモ、才智
アル人ニテモ、書ヲ讀サレハ、見識ト云フモノナ
ク、其爲ル所皆俗見ニ隨ルナリ、多ク書ヲ讀ンテ、
聖賢ノ心術、豪傑ノ事迹ニ通スルニ非レハ、俗ヲ
免ル、一ハ能ハサルナリ、又教官ニ任スル者ハ、

文學ヲ以テ終身ノ任トスル一ナレハ如何ニモ、
手ヒロクモ、奥深クモ、穿鑿スヘキナリ、兵學ハ、武
ニ屬スル一ナレハ、兵書ヲ講スルハ、言語ヲ用ル
ニ過ス、經史ノ講說ヲ爲スモ、同様ノ一ナリ、故ニ
文學ノ一科ニ屬ス、醫學モ又然リ、儒書醫書、講說
ニ兩様ナシ、故ニ學カアリテ、醫書ニ委シキ醫師
ヲ學校ニ出席セシメ、一切ノ醫生ノ爲ニ醫書ヲ
講セシムヘシ、

素讀ヲ授クル一ハ、輪講生輪讀生ニ命シ、輪讀ヲ

監スルヲハ、文章生輪講生ニ命スヘシ、輪講ヲ監
スルヲト、文章ヲ試ルヲハ、教官自ラ之ヲナスヘ
シ、凡ソ學校ニ出ルモノ、大國ハ數千人ニ及ヘケ
レハ、警古ノ筋モ行ト、キカヌル訣ナリ、前ニ申
セシ、公子家老ノ息、其家ニテ素讀ヲ授カルヘシ
ト云イシモ、其故ナリ、實ハ右ノ人々ニ限ラス、誰
ニテモ、其近隣ニ授讀講釋ナト致ス者アラハ、其
人ヲ師トシテ學ヒテ、苦シカラヌヲナリ、左スレ
ハ、其事ヲ預メ奉行并ニ教官ニト、之ヲ置クヘシ、

其上ハ、學校ニ日々出席スルニ不及、只日ヲ限リ
テ出席シ、教官ノ檢察ヲ受テ、素讀生ヨリ文章生
迄ノ内、其階級ノ處ニ名板ヲ連ヌヘキナリ、私ニ
教授スル者アルハ、學校ノ助ケイナルヲナリ、嫌
フヘキヲニ非ス、若シ私ニ師ヲ取リテ、一向學校
ニ名ヲ出サヌヲハ、祿ヲ食ム者ノ子弟ニハ、禁ス
ヘキナリ、又知行所ニ居ル者ノ子弟ハ、學校ノ居
寮生トナリ、或ハ其地ニテ師ニ就テ學フヘシ、凡
一郡ニ儒生數人ヲ置キ、其地ノ教諭職ニ任スヘ

シ、是ハ祿ヲ與ルニ及ハス、郡奉行ヨリノ取次ヲ以テ、其地農家醫家神職ナトノ内ニ、學ヲ好ム者アラハ、一旦學校ニ出シ、檢察ノ上、其器ニ當ラハ、苗字帶刀ヲ許シ、村儒トナス可シ、是ヲ以テ在宅ノ武士、及ヒ庶民ノ師トスヘキナリ、國君學ニノソシテ生員ヲ試ミ玉フ、一月ニ一度ニテ宜シカルヘシ、其時ハ輪講文章ノ類、皆眼前ニライテ試アルヘシ、モトヨリ生員上等ノ者ノミニテヨロシ、試終リテ格別ニ手キハヨロシキ

ハ、褒詞マタハ賜物アルヘシ、奉行學ニ至ルハ、月ニ三度程ニテヨロシ、文武兩學共ニ同シ、君ハ兼テ奉行ヨリ、生員ノ人柄、並ニ其能不能ヲ聞タマヒ、尚又學校臨試ノ時、目ノ當リ、悉クコレヲ察シテ、後年其人ヲ取用ル時ノ心得トシ玉フヘシ、德行、言語、政事、文學ハ、孔門之四科ニシテ、成徳ノ人ヲ稱スル語ナレハ、童蒙ノ任スヘキニアラス、然レ、其大概ハ觀ヘキナリ、生員學校ニテ、進退周旋、禮儀ニカナイ、已レカ身柄ノ貴ヲ扱マズ、

長者ニ下リ、能者ニ讓ルハ、即德行也、講談ニ臨ン
テ、言語爽カニ、聞モノ、耳ヲ驚スハ、即言語ナリ
文章ニテ義理ヲ判斷シ、事体ヲ處置スルコト一々
宜シキヲ得タルハ、政事ノ才アリテ、文學ヲ兼タ
ルナリ、凡人ヲ觀ノ道、其小ヲ觀テ、其大ヲ知ルコト、
古人ノ貴フ所ナリ、返々モ、藝術 高下ヲ考ルノ
ミノコトトシ玉フヘカラス、

武學ハ、文學ヲ去ルコト一丁程ニノ建ツヘシ、其中
ニテ、劍術、槍術、弓術、馬術、砲術、柔術ナト、一切武備

ニ供スル程ノコトヲ科目ヲ分テ、教官ヲ置クコト、一
一文學ノ如クスヘシ、生員ノ力量ニ隨ヒ、其甲乙
ヲ分ツコト、亦文學ノ如シ、是モ武士ノ一通リ知ラ
テ叶ワヌコトノ分ヲ、一統ニ知ラシムヘシ、藝術ノ
精微ニ入ルコトハ、師範役ニナル志ノアル者ノミ
ニスヘシ、

學校ノ制ヲ右ノ如クニ立ルコト、人才ヲ育シ、且卷
首ニ論セシ六弊ヲ變セシカ爲メナリ、公子ヨリ
シテ、大身ノ子タルモノ、學校ニ於テ、歩士歩卒ノ

子ト列ヲ同シ、長幼ヲ以テ相讓ル時ハ、自然ト尊
倨ノ態ハ除クヘシ、從者二人ニスキス、途中人ヲ
避ケシムルノ事ナキ時ハ、誇張ノ態ハ除クヘシ、
途中ヨリ學校マテ、衆人ニ面ヲミセ、且應對進退
セハ、秘閉ノ態アルヲ得ス、學校中、專學業ノ高
下ヲ以テ、席頃ヲ定ムル時ハ、門地ノ論ハ無用ナ
リ、書ヲ讀テ古今ニ通セハ、因循ノ弊、文盲ノ害ハ、
自免ルヘシ、然ラハ、子弟其中ニ生長スル者ハ、知
ラス、知ラス、當世ノ俗習ヲ脱シテ、成人ノ後、家ニ

居リ官ニ任スルニ至テモ、其作事必觀ヘキモノ
有ナリ、

太平久ク、人安佚ニ習ヒ、難行苦行ヲ勤ルヲアタ
ハス、右學校ノ制モ、イカニ宜キヲナレ、トテ、其
人ノ身ニ苦痛アルヲナラハ、決テ行レヌ説ナリ、
今述タル處ノ如キハ、聊モ難儀ノヲハアラス、只
一種ノ驕慢ノ心ヲ除クマテノヲナリ、是モ其苦
ノヲト心得レハ、少モ難キヲハナキナリ、譬ハ茶
ノ湯ヲスルモノ、貴賤ノ別チナク、同間ニ入、人ノ

飲アマシタル茶ヲ飲ム、其時ハ、大名モ、臣下モ、打
混スルナレド、曾テ耻ル心ナシ、又碁ヲ圍ム時、
君タル人、イカホト負ルヲ嫌ノ人モ、臣下ニ向テ、
ニ手一時ニスルトイフヲハナシ、都テノヲ其業
ヲスルカラハ、其法ニ従スシテハ、何ノ詮モナク、
又樂ニモナラヌモノナリ、然ルニ、學問ノ事ノミ
ハ、古法ニ従ハス、或ハ教ル人ヲ下坐ニヨキ、朋友
ニモ長幼ヲ論セス、家格ヲ申立ル杯、碁ヲ圍ニ、已
レ獨ハニ手一時ニスルトイフ様ナル類ノヲナ
リ、且千ノ利休カ定メタル慰ミノ法ハ、已レカ
身ヲ屈シテモ、固ク之ヲ守リ、歷代聖人之定玉ヘ
ル人倫ノ大法ハ、我ヲ張リテ之ヲ守ラス、何ソ其
レ輕重ヲ顛倒スルノ甚シキヤ、是ハ儒者共ヨリ、
其事ヲ申立テサルカ不念ナリ、サレド、儒者ノ職
モ、今時ノ諸侯ノトリアツカニ位イニテハ、故實
モ、存寄モ、申シ出ルヲ出來サルハ尤ナリ、トカク
人君ハ、論語ニ、君使臣以禮スレハ、臣事君以忠ト
イヘルヲ心得玉フヘキナリ、

近
信
學
制

坤
中
裁

諸公子以下ヲ混合スルヲ、人才ヲ育、弊俗ヲ變ス
ルノミニ非ス、外ニモ其功多シ、右ノ如スレハ、生
員タル者ハ、貴賤上下ノ隔ナク、皆朋友ノ好ヲ結
ヒ、至テ心安クナルナリ、故ニ後年公子ハ國君ト
ナリ玉ヒテ後モ、下情ニ能通シ、歩卒ニ至ルマテ
モ、其人柄ノ大畧ヲ諳知シ玉フ、故ニ之ヲ使役ス
ルニ便アリ、家老諸大身ノ子モ亦然リ、家中ノ人
柄ヲ知ルハ、役儀ノ上ニ於テ、何ヨリノ心得ナリ、
又下ヨリモ上ノ心ヲ能知リタル故ニ、無用ノ處

ニ疑ヒ恐ル、心少ク、至テ上ヲ親ク思フ、凡國ヲ
治ルノ道、下ヨリ上ヲ親ムト云フヲ、第一ノ好キ
事ニテ、又第一ノ難キヲナリ、幼少ノ時、朋友ノ因
ミ有レハ、自然ト親クナルナリ、
今世ニ養子ト云フ盛ニ行レ、貴賤トナク、異姓ノ
人ヲ以テ、己カ嗣トスルヲ、古ノ道ニ不合ヲナリ、
然レ氏、智者ノ事ヲ處スルハ、轉禍爲福、因敗成功
ト云フアリ、今時ノ時宜ニテハ、養子流行スルヲ
幸ニ、賢ヲ進メ不肖ヲ退クルノ手段ヲ施スヘキ

ナリ、前ニ申セシ如ク、家督ノ願ヲ出ストキ、奉行
教官ノ真判ヲ取ルト定ル時ハ、無藝無行ノ者ニ
ハ判ヲセス、故ニ其親モ強テ願立ルヲ致シ難ク、
或ハ長子ヲ捨テ、次男ヲ用ヒ、或ハ實子アリテモ、
養子ヲスルナリ、然レハ、不肖ヲ退ルヲ上ノ命ナ
クトモ、風俗ノ中ヨリ自然ト出來スルナリ、養子
ヲスル時今迄ノ風俗ナレハ、門地ヲ第一トシ、已
カ家ト同格ヨリ下ノ者ハ用ヒサレ、氏、學校ニテ、
生員ノ差等明白ニナリ、才能アル者ハ、上ハ君聽

ニ達シ、下ハ一家中ノ評判高キ故ニ、自然ト門地
ヲ論セス、評判宜キ者ヲ擇ニテ養子トス、故ニ百
石ノ家ニ生レテモ、千石ノ家ヲ繼キ、千石ノ子モ、
萬石ノ家ヲ續ク様ニナルヘシ、其處ハ君ト奉行
職トノ鼓舞ニヨリテハ、一同其了見ニナルヘキ
ナリ、然レハ、賢ヲ進ルノヲモ、上ノ命ヲ不待ノ、自
然ト成就スヘシ、前ニ賢者モ相應ニ進路ヲ得ヘ
シト云タルハ其處ナリ、

迂言學制坤中終

迂言

雜論六

財用ヲ理スルハ、國ヲ治ムルノ要務ニノ、當世
テハ別シテノ急務ナレハ、諸國ノ政ニ從フ程ノ
者、其事ニ汲々タラサルハナシ、然レハ、其術日ヲ
逐テ精シクナリ、范蠡計然ノ如キノ人才モ、往々
有ルヘキニ、古語ニ、耕當問奴、織當問婢ト云フコ
トアリ、財ヲ生スルハ、書生分上ノ事ニアラス、其
道ノ人ニハ如カサルナリ、但我輩ノ知ル所ヲ論

迂言 雜論

坤下

世ハ、財ヲ生スルノ道、勤儉ノ二ツニアリ、勤ルキ
ハ財生シ、儉スル時ハ財散セス、此二字ハ、昔人大
禹ノ德ヲ賛スル處ニ、其至ルニ及テハ、只聖人
之ニ當ルト云ホトノナリ、是萬古不易ノ道也、
此ニツヲ外ニ、財ヲ生スルノ道ヲ説クモノハ、
皆邪説ナリ、後世利ヲ興スノ説盛ニシテ、其説ヲ
唱ルモノ或ハ云フ、我説ニ從カハ、節儉ヲ用ヒ
スノ、財用富饒ナリト、是姦計ヲ設ケテ、民ノ財ヲ
欺キ奪フニ過ス、後ハ必一國ノ痛ミトナリ、其疵

數世ヲ經テモ瘥ヘカタル、譬ハ腎虛ノ人アルニ、
種々ノ補藥藥食ヒ等ヲス、メテ、如此ナレハ、房
欲ヲ恣ニシテモ害ナシト云フカ如シ、必ス其命
期ヲ促スナリ、國家ヲ有ツ人ハ、如此ノ邪説ヲ避
ル、蛇蝎ヲサクルカ如クニ、玉ヲヘシ、又人君
ノ内ニ、專ラ惡衣惡食ヲ務テ、克己ノ道ヲ行ヒ給
ヘトモ、下ヲ御スルニ、恣ヲ以テスルヲ能ハサル
ノ人アリ、其儉約只一身ニ止リテ、一國ニ及ハス、
一身ノ外、猶冗費ノミ多フメ、國ノ貧シキヲハ自

若タリ、是ヲ孟子ニ徒善不足以爲政ト云ヘリ、
冗費ヲハフクフ、今時ノ急務ナリ、冗費ヲハフカ
ントセハ、先ツ冗官ヲハフクヘン、前ニ僕從ノ數
ヲ減スルヲ舉シモ、其一端ヲ舉ルナリ、其他如
此ノ類、舉テ數エ難シ、但シ冗官タルモノ、久敷其
事ヲナシ來リ、夫レニ因テ衣食セシ者ナレハ、俄
ニ之ヲ省クトキハ、職業ヲ失ヒ、困窮ニ及フ、是以
黨ヲ結ヒ亂ヲ企テ、其議ヲ拒ム、富國ノ策ノ行レ
難キ所以ナリ、故ニ冗官ヲ省カントセハ、預メ其

者ノスヘキ職業ヲ定メ、困窮ニ及ハサル様ニ、路
ヲ開イテ置キ、而後其處ニ移スヘシ、此ノ一段、政
ヲスル人、餘程ノ工夫ヲ勞スルニ非サレハ、成就
シ難シ、

都下邸内ニ留ルヲ、庶人ノ身ニ譬ヘテ云ハ、旅行
シテ、ハタコ屋ニ居ル道理ナリ、一日ノ雜用家ニ
在トキノ一陪モ三陪ニモ當ルヲ、先哲ノ言ニモ
コレヲ云リ、故ニ邸内ノ人ハ、一人ニテモ少ナキ
ヲヨシトス、仍テ江都詰家隸ノヲハ成丈減省ス

ヘシ、逆モ、今時ノ勢ニテ、諸侯ノ屋鋪ニ夜討ナト
在ヘキヲニアラス、右様ノ備ニハ及ハヌナリ、夕
夕主君外出ノ時ノ儀衛ト、公邊列國ヘノ取合ニ
アツカル役人サヘアレハ、濟ムヘキナリ、但シ公
義ヨリ役目仰付ラル、ヲアリ其時ハ人モ多ク
用ユルヲナラハ、其時ニ至リ、國本ヨリ呼登スル
氏可ナルヘシ、

財ヲ用ユルノ道、量入爲出ノ四字ニ止マルヲ、聖
人ノ言ナリ、入ルヲ多ク、出ルヲ少ナケレハ、匹夫
ト雖氏又富ム、出ツルヲ入ルヨリ多ケレハ、天下
ヲ有ツト雖氏、又足ラサルニ苦シム、故ニ國ノ入
數ヲ積リテ、出數ヲ定メ、少シツ、ノ餘リヲ存シ
テ不虞ノ變ニ備フルヲ、古今ノ通法ナリ、今時ノ
處ニテハ、先ツ參勤道中ノ入用、江戸邸第ノ入用、
世間ヘノ音信贈答ノ入用、在國ノ入用ナト一々
部分ヲナシ、財用ノ出數ヲ豫メ定メ、一事ニ一役
ヲ用イテ、之ヲ司サトラシムヘシ、其費用ノ多少
役人ノ手ニ任セ置キ、若シ取り料イ宜シクテ、費

ハフク時ハ、手當ノ財餘ルナリ、即チ是ヲ其役處
ノ金トナメ、蓄ヘ置キ、之ヲ高人ニ預ケ、其利息ヲ
出サシムヘシ、如此ニメ、年々フユル時ハ、役人ノ
功ナリ、或ハ其階級ヲ進メ、或ハ其祿ヲ益スヘシ、
若シ役人取料イ行届カスシテ、手當ノ財用不足
スル時ハ、上ニ申シ出シテ、證文ヲ納レ、金ヲ拜借
シ、後年此方ニ餘財出來タルトキ、之ヲ返スヘシ、
若借財積リテ返スヲ能ハサルニ至リテハ、役人
ノ罪ナリ、如此ハ、或ハ其階級ヲ退ケ、或ハ其祿ヲ

減スヘシ、如此ニ國財ヲ部分ニメ、容易ニ交通セ
サレハ、役人共、銘々出精シテ、ヲノレカ功ニセシ
ト思フヨリ、自然ト節儉行キ届キ、府庫自富ムヘ
シサテ右ノ財ハ、國財ト名ケ、只 公義ヨリ御手
傳金ノ命アルトキ、諸役所ニ配當メ、之ヲ出サシ
メ、其他ハ君ト雖氏、決シテ之ヲ用ユルヲ得ス、
若シ己ムヲ得サルヲアラハ、君亦證文ヲ納レ
テ、之ヲ借用シ、後ニ返濟シ玉フヘキナリ、諸事費
用ノ多少、固ヨリ時ニヨリテ不同アルナリ、先ツ

其常ヲ料リテ法ヲ定メ、若シ變ニ逢フテ、費用多
キコアラハ、果シテ理ノ當然ヨリ出テタルト、役
人ノ不届キヨリ出タルトヲ論定シテ、處置アル
ヘキナリ、此事國ニヨリテハ、其制立チタル處モ
アルヘシ、今其事ナキ所ノ爲メニ之ヲ論ス、
賦税ハ勿論ナリ、諸産物ノ運上モ、皆少キヲヨシ
トス、多ケレハ、物價高クナリテ、國疲弊スルナリ、
但商人ハ金ヲ人ニ貸シテ、其利息ヲ收ムルコト、其
身ニ取りテ、ハ莫大ノ利益ニシテ、上ニ一錢ノ運

上ナシ、且ツ滞ルコトアル時ハ、訟へ出テ、上ノ厄々
ニハナルナリ、此事運上アリテ宜シカルヘシ、喻
ヘハ、百金ヲ人ニ貸シ、其利十金ト定メタラハ、乃
チ一金ヲ上ニ納メ、證文ノ奥ニ、役人ノ判ヲ取ル
ヘシ、如是ニシテ、滞リタラハ、上ヨリノ世話ヲ以
テ、急度借主ヨリツクノヒ返サシムヘシ、若シ運
上ヲ納メス、役方ノ判ヲ取ラサルモノハ、滞リタ
ル時、願ヒ出ワルコト叶ハスト定ムヘシ、但シ是モ
極瑣細ノ假借ニハ、公私共ニ煩シ、運上金壹歩以

上ノ分ヲ、左様ニ致シ然ルヘシ、
刑罰ノ法、死罪、徒罪、移居、罰金ニテ宜シカルヘシ、
遠嶋ハ、國中ニ相應ノ島アラハ行フヘケレヒ、然
ラサレハ事ムツカシ、追放ハ、己カ國ノ禍ヲ人ニ
嫁スルノ道、亂世ノトニメ、太平ニ行フヘキトニ
非ス、今時盜賊、其他ノ姦民、世上ニ充滿スルト、皆
追放ノ弊ナリ、此近國ニ其弊ヲ慮リテ、代ルニ徒
罪ヲ以テセラレシ君アリ、誠ニ仁政ト云フヘシ、
但シ徒罪ノ法、其詳ナルト未タキカス、何レ時宜

ヲ計リ、折中ノ行フヘキナリ、教ニ從ハサル者ハ、
其居ヲ移ストハ、古ノ法ナリ、是ハ城下ニ居ルモ
ノヲ邊鄙ニ移シ、近ニ居ルヲ遠ニ移メ、コラシム
ルナリ、固ヨリ其地ニ入帳シテ、其地ノ役人ヨリ、
教禁ヲ加ユルナリ、追放帳外トハ大ニ異ナリ、罰
金ハ、徒罪移居ニモ至ラヌ程ノ輕キ處ニ用ユヘ
シ、
武士ノ人ニ殺サレ、或ハ不慮ノ變死ヲスル者ハ、
家斷絶ニ及フト、今時ノ通法ナリ、是其法弊アル

言 雑言
トヲ覺ユ、得ト事ノ筋ヲ穿鑿ノ、處置アリタシ、間
夫ヲ爲シテ殺サレタリト云フ類ハ、斷絶スヘキ
ナリ、小身モノ、獨行シテ賊ニ遇、一人ニテ多人ノ
爲ニウタレリト云フ類モアルヘシ、是ハ寡不敵
衆ハ、理ノ當然ナレハ、必シモ尤ムヘカラス、理非
ヲ論セスノ、殺サル、ハ耻辱ト立ルハ、無理ナル
判斷ナリ、又水ニ溺レテ死シ、其他不慮ノ變死、正
シキ人ニモ有マシキトニ非ス、一概ニ之ヲ罪ス
ヘカラス、此處ノ道理分明ナラハ、僕從ヲ多クシ

テ、無益ノ用心ヲスル風儀、改リテ宜カルヘキナ
リ、
記録ト云モノ、國々ニ无テ叶ワヌ者ナリ、古ヘ晋
ノ乘、楚ノ擣、杞、魯ノ春秋ト云シカ如キ、是ナリ、今
時文學盛ニ行レナカラ、諸國皆記録ナキト一大
缺典ナリ、急々文臣ニ命、撰述セシムヘキ者ナリ、
其法司馬遷カ史記ノ體ニ倣ヒ然ヘシ、先ツ開國
ノ君ヨリ、歷世ノ君マテ、一々世家ヲ編ミ、其君ノ
行狀ヨリノ、國ノ大事ハ、皆其中ニ録スヘシ、群臣

ハ列傳ヲ作ヘシ、其外ニ、史漢ノ八書十志ノ例ニ
從ヒ、其國ノ土地ノ一ハ地理志、制度ノ一ハ禮志、
刑罪ノ一ハ刑法志、食貨ノ一ハ食貨志ナト、名
目ヲ立テ、之ヲ編纂スヘシ、二百年來ノ一ナレハ、
大國ナラハ四五十卷ニモ及ヘキナリ、而後之ヲ
傳寫シ、或ハ雕刻ノ、國中ノ書ヲ讀ム程ノ者ニハ、
不殘見セシムヘシ、遠キ古ノ一ヲ學ヒナカラ、述
キ吾國ノ一ニ不通ノ可ナルヘキヤ、之ヲ讀テ習
熟セハ、政務ニ付テノ心得、一方ナラヌ一ナリ、且

國君以下士太夫ニテ、皆其行事ノ後ニ傳ルヲ觀
ハ、自ラ戒勵ノ志ヲ生スヘシ、今時儒生能文ノ人
アレ氏、皆ナクサレ事ノミニ、文ヲ作りテ、少シモ
國家ノ用ニ供セス、是上ニ取用ヒ玉ハサル故ナ
リ、如是ノ一アラハ、文章始テ用ニ立ツナリ、記錄
ノ文ハ漢文ニテモ、又和文ニテモ苦シカラス、夕
夕文章能行届キテ、事情如見ニ寫シ得ルヲ主ト
スヘシ、

或ノ曰、世間ニ一種ノ說アリ、天下ノ諸侯、其國富

饒ナル時ハ、或ハ亂ヲ企ルニ至ル、故ニ諸侯ハ貪
シキニ如クハ無シ、是 御公儀ノ意ヨリ出モノ
ナリト、然ラハ富國ノ策ハ、トテモ行フヘカラサ
ルニ非スヤ、荅曰、其事ハ己ニ先哲ノ論辨セシ旨
アレハ、今更言フニ不及、夫レ諸侯窮スレハ、下民
ニ取ラサルヲ得ス、下民窮スレハ、老弱ハ溝壑
ニ轉シ、壯者ハ相聚リテ亂ヲ爲スヨリ外ハナシ、
天下ハ皆 御上ノ物ナルニ、諸侯ノ民而已ヲ困
メ給フヲ、イカテアルヘキ、又右ノ如クナレハ亂

ニ赴クノカタチハ、現然タリ、イカテ左様ノ淺ハ
カナル思召アルヘキ、是全ク小人ノ腹ヲ以テ、君
子ノ心ヲ料ルト云フモノナリ、且又國初ノ時ト、
今ノ時ト、天下ノ勢同シカラス、今ハ諸侯ヲ富シ
テ參勤ノカケサル様ニスルヲ、要務タルヲ、是亦
先哲己ニ之ヲ論セリ、夫良醫ノ疾ヲ治スル、其症
ニ隨ヒ、實スルトキハ之ヲ瀉シ、虚スルハ之ヲ補
ス、若實症ニ逢テ之ヲ瀉シ、一旦効ヲ得タリトテ
其後ノ症ヲ論セス、專ラ瀉スル而已ナラハ、豈良

醫ト云ヘケンヤ、今諸國困乏己ニ窮ル時ニ當リ
テ、尚之ヲ貪スルノ恣ヲ施スハ、極々虚脱ノ症ニ
峻瀉ヲ用ルカ如キナリ、豈天下ヲ經スルノ良
方ナラシヤ、凡ソ諸侯ニ金ヲツカワシムルハ、都
下ノ小役人、并ニ商賣人又江戸勝手ノ役人、杯ノ
利ニナル筋ナリ、故ニ種々ノ説ヲ設ケテ、其財ヲ
散セシメ、歸スル處ハ、御上ノ思召杯唱ルナリ、勿
体ナキナリ且ツ諸侯タルモノ、謀反セヌ而己
ヲ奉公ト心得、事スムヘキヤ、天下ノ武備ニ供ス

ルナリ、第一ノ務ニ非スヤ、萬一モ、大阪島原ノ兩
役、又蒙古ノ來リ襲イシ如キナラハ、貧窮ニメ、
人馬ノ備器、伏ノ具モナクハ、何ヲ以テカ、上ノ
用ニ供スヘキ、是不忠ノ甚シキニ非スヤ、下々ノ
風説、トルニ足サルナリ如此、

或曰、儒者ノ論ハ、強テ日本ヲ漢土ノ風ニセント
スル癖アリ、是以其言時宜ニ合ハス、用ヒ難ナリ多
シ、答曰、譬ハ今新ニ家ヲ建ル者アリ、サレツイカ
カスヘキヤト問ハ、イカニモ、十分此方ノ存寄

ヲ申ヘキナリ、若普請成就ノ上、存寄ヲ問タリトテ、申スヘキコトナシ、申ス氏思フコトノ十分一也、國ヲ治ルノ道亦然、閔國ノ始ニ、此方ニ任せ、存寄通ニ致ス可シトナラハ、イカニモ、唐風ニモ、何風ニモ思フ通ニスヘシ、制度已定リ、且數百年ヲ經タル後ニ、存寄ヲ問タリ氏、イカテ申シ出コト有ヘキ、唯其時ノ急務ヲ少々存寄ヲ付ルノミナリ、但シ俗人ノ存念ト少シ異ナル處ハ、譬ハ、コ、ニ一ツノ家宅有リ、モト瓦葺ニモスヘキ所ヲ、茅葺ニ致

シタリ、因テ程ナク漏ル様ニ成レリ、即其所ヲツクロフ、其後モ亦漏ルニ隨、追々ト手ヲ入レタリ、然ル所、數百年ヲ經テ、今ハ屋根ノ茅、一面ニ朽タリ、漏ル所數十ヶ所ニ及ヒ、家内ヲ傘ヲサレテ通行スル様ニ成タリ、然ルヲ、主人ノ心ニテハ、今追ノ通り、少シ手ヲ入テスマサントスル氏、中々其分ノコトニテハスマス、家ヲ立テ易ルニハ及ハサレ氏、屋根ノ分ハ、スヘテ葺キ易ルニ非レハ不可ナリ、今ノ時勢是ニ似タリ、國初ノ時、制度ノ吟味

十分ナラス、其後唯姑息ヲ以テ、一時ノ急ヲ救タ
ルニ、今日ニ至テ、困窮コ、ニ極リタリ、今從來ノ
例ヲ考タルノミニテハ、トテモ形タ付ク様ナシ、
イツレ舊例ヲ變シテ、新規ヲ起スヲアルニ非レ
ハ、不可ナリ其新規、百年以來見習ヌヲナル故、俗
人ハ目ヲ驚シテ、唐流、阿蘭陀流ナト、言詈ルナリ、
實ハ唐モ何モ有クニ非ス、何トナリト致テ、國家
ノ急ヲ救フマテノクナリ、然ラスニハ、人ノ國ヲ
已カ慰モノニスルト云モノナリ、豈仁者憂世ノ

本意ナラシヤ

日本ハ漢土ト中ニ海ヲ隔タレ、其地脉ハ相通
セリ、天地ヨリ見レハ、唯是同國ナリ、然レ、其君
同カラス、制度一ナラサルヨリ、風俗ニ異同アリ
ト雖、氏、大本ノ人情ニ至リテハ、少シモ異ナルク
ナシ、中古 朝廷ヨリ漢土ニ音信ヲ通セラレ、彼
方ノ道ヲ學テ、禮樂制度一々彼方ニ擬セラレタ
リ、其後太平久シク續キ、上タル人安佚ニ耽リ、文
ヲ玩ヒ武ヲ忘レタルヨリ、天下大ニ亂レ、武人下

ヨリ起リテ天下ヲ領スルニ至ル然レ氏古語ニ
天下ハ馬上ヲ以テ得ヘクトモ馬上ヲ以テ治ム
可ラスト云シ如ク、治國安民ノ術、武人不學ノ徒
ノカニ及フニ非ス、故ニ賴朝三世、北条八世、足
利十三世、前後四百年ニ涉レ氏、天下安寧ニメ千
戈ヲ見サルヲハナク、專ラ爭亂ノヲノミナリ、
東照神祖出玉フニ及テ、武ヲ以テ亂ニ勝テ、文ヲ以
テ民ヲ安シ、鎌倉以來ノ弊風ヲ改メ玉ヒテ、天下
升平ニ百餘年ニ及フヲ武家アツテヨリ以來未

曾有ノヲナリ、是ハ、漢土ニテ、周監於二代、郁々乎
文哉ト云シ如ク、鎌倉室町ノ武ノミニ任セシ弊
政ヲ監セラレ、諸事文武ヲ兼用サセ玉ヒシ故也、
然リト雖氏、物久キヲ經レハ、必弊ヲ生ス、周晁殷
輅、聖人ノ制ト雖氏、後世弊ナキヲ能サルカ如ク、
今時武門一種ノ弊風ヲナセリ、今其弊ヲ補ント
セハ、先ツ武門ノ政ニ所長アリ、所短アルヲ知ル
ヘキナリ、武門ノ所長ハ、老子ノ見ニ似タルヲ多
シ、是必スシモ老子ヲ學フニ非ス、自然ト相合ナ

リ、老子ノ術ハ、不敢爲天下先ト云ヲ、主意トメ、一
切ノ一ニ、此方ヨリ手ヲ出サス、禮制ヲ立テス、何
レモ舊來ノ例、或ハ下ヨリ願出ル旨ニ隨テ、之ヲ
取料ラウ、是武門ニ於テ第一トスルコトナリ、其他
老子賢ヲ尚ヒス、武門モ亦門地ヲ論メ、賢愚ヲ論
セス、老子學ヲ絶テ無憂トス、武門モ亦學問ヲ不
貴、老子簡易ヲ貴フ、武門モ亦簡易ヲ貴フ、老子虛
其心、實其腹、弱其志、強其骨ノ說アリ、今ノ武士皆
骨力壯健ナレド、虚心弱志ニメ、少シノ一モ思慮

工夫ヲ廻スレテ不能、如是ノ類、勝テ言盡シ難シ、老
子ハ孔子ノ師ニメ、他ノ諸子ノ及フ所ニ非ス、漢
ノ文帝景帝、專其學ヲ好マレテ、天下大ニ治リ、三
代ト隆ヲ同セリ、我邦二百年來ノ升平モ、亦之
ニ近キモノナリ、但老子ノ學ハ、禮ヲ廢メ、制度ヲ
立ルコトナキ故ニ、上ニ賢君アリテ、質素ヲ以テ下
ヲ率ヒ玉フ時ハ、天下大ニ治ルト雖ド、若奢靡ヲ
好ム君一タヒ出ル時ハ、其制度ナキ所ニ乘メ、已
カ欲ヲ從ニシ、遂ニ亂ヲ生スルニ至ル、文帝景帝

ノ後ニ武帝出テ奢ヲ恣ニシ、天下疲弊セシカ如
キ其弊ナリ、我邦ノ事勢モ亦之ニ相近シ、上ニ
武帝ノ如キ君アルニハ非レト、二百年ノ久キヲ
ヘテ、國初ノ時、萬事質素ナリシ風、追々ト消ヘ亡
セテ、奢靡誇張ノ風俗ヲナセリ、是初ニ制度ナキ
カ故ナリ、今其弊ヲ補シトナラハ、制度ヲ改メ始
ルト云フハ、時勢ニ於テ致シ難レト、唯其制度ナ
キ内ニ於テ、一種ノ小制ヲ始メ、洪水ノ出ル所ニ
隄防ヲ設ル如キフヲナスヘキナリ、若夫レ程ノ

フヲモ致シ得スハ、誠ニ拙キフナリ、凡天地ノ人
ヲ生スルフ絶ヘス、其内ニ賢才ノ者モ亦絶ヘス、
前人ハ前人ノ天職アリ、後人ハ後人ノ天職アリ、
二百年前ノ君相タル人ノ天職ハ、亂ヲハラヒテ
治トナスニアリ、今ノ君相タル人ノ天職ハ、治ヲ
保テ亂ニ赴カシメサルニアリ、其職ニ當リナカ
ラ、手ヲ束テ之ヲ務メス、國家窮スレハ罪ヲ前人
ニ歸メ曰、先格ナレハ致方ナシト、嗚呼今ノ政ヲ
スル入、罪ヲ先格ニ委ルフナクシテハ、國家安穩般

富ナルヘキノミ

儒者ニ俗儒迂儒真儒ノ三ツアリ、書ヲ讀ニサル
人トテモ、其品ノ分リタルヲ承知スヘキナリ、
俗儒トハ、古今ノ書ヲ博覽スレ氏、古ノヲハ今ト
違ヒ、唐ハ日本ト違ヒ、貴人ハ平人ト違ヒ、聖賢ハ
凡人ト違ヒタル故ニ、書物ノ中ニ有テ、一ツトメ
今時ニ取用ヘキヲナシ、且唐メキタルヲ言ヘ
ハ、俗人大ニ忌嫌フ故ニ、書物ノ中ノ事ハ、見臺ニ
向タル時ニ非レハ言ス、平日ノ言行ハ、一々世俗

ノスル所ヲニテ、少シノ出入モナキ様ニスル、是
書ヲ讀タルノミニテ、少シモ俗人ニ異ナルヲナ
シ、故ニ是ヲ俗儒ト云フ、迂儒トハ、其一等上ニメ、
和漢古今同シカラサレ氏、此方ノ仕方ニテ、和モ
漢トナスヘク、今モ古トナスヘキト云處ニ、目ヲ
付テ、平生ノ學トコロヲ、今日ノ事ニ施ニトス、然
レトモ其才力不足、智畧不練、スル事自然ト迂遠
ニナリテ、事情ニハツレ、時宜ヲ失フ、故ニ迂儒ト
云ナリ、真儒ト云モノハ、又遙ニ其上ニシテ、已ニ

和漢古今ノ同キ所ヲ知り、又其異ナル所ヲ知ル、
故ニ施シ行フヘキ所ハ、是ヲ行ヒ、行ハレ難キ所
ハ不行、其學問熟シ、其才知練タリ、平日ノ所行、俗
人ト異ナルヲナシ、故ニ俗儒ニ似タン氏、其中ハ
異ナリ、知己ニ遇サル故、其存寄ヲツ、ムナリ、若
知己ニ遇トキハ、必ス古ノ道ヲ以テ當世ニ行ス、
其スル所、俗人ノ目ヲ驚ス、故ニ外ヨリ見ハ、迂儒
ニ似タレ氏、實ハ非迂、己カ力量ト、可爲勢トヲハ
カリテスル所ナリ、是古ノ所謂君子儒ト云モノ

ナリ、當世ノ儒者、尤多キハ俗儒ナリ、其次ハ迂儒
ナリ、俗儒ハ、古今物理ノ異ナル所ヲ知テ、其同シ
キ所ヲ知ラス、迂儒ハ、其同キ所ヲ知リテ、異ナル
所ヲ知ラス、皆一隅ヲ見ルナリ、其品ヲ論セハ、迂
儒ハ俗儒ヨリモ高ク、其害ヲ論スレハ、俗儒ハ迂
儒ヨリモ淺シ、此ノニツノ者、少シク可用シテ、大
ニ不可用、一官ニ居シメテ、其任ヲ責レハ害ナシ、
國家ノ重任ヲ命スレハ、大事ヲ誤ルナリ、真儒ハ、
百千人ノ中ニ、唯一二人ヲ得ヘシ、共ニ非常ノ事

ヲハカリ、國家ノ重ヲ荷ハシメントナラハ、真儒
ニ非レハ不可ナリ、故ニ國家ニ長タル人ハ、預メ
此ノ三品アルコトヲ知テ、而後其擇フ所ヲ知ヘキ
ナリ、

迂言雜論坤下終

迂言附録

迂言ノ中ニ、庶民ノ奢靡ヲ禁スルノ方ヲ言リ、
其說未詳ナラス、ヨツテ數則ヲ録シテ、之ヲ補
フ者也、
廣瀬建

總論

ツラノ、國家ノ興廢ヲ考ルニ、治極レハ亂ニ入
リ、亂極レハ治ニ入ルコト、寒暑晝夜ノ常數アルカ
如シ、其故ハ、治極レハ安佚ニ耽テ奢靡ヲ生シ、奢
靡極レハ、困窮ヲ生シ、困窮極マレハ、争亂ニ及ス、

又亂極レハ、苦痛ニ堪テ儉約ヲ生シ、儉約極レハ
豐饒ヲ生シ、豐饒極レハ治平ニ及フ、然ラハ、奢靡
ハ亂世ノ源、儉約ハ治世ノ媒ナリ、國家ヲ有ツ者、
奢ヲ戒メ儉ヲ勸ルノ務、豈一日モ怠ルヘケンヤ、
是ヲ以上ヨリ屢儉約ノ號令ヲ下シ玉フ事ナル
ニ、如何トモシカタクハ、庶民ノ愚ナル習シニテ、
有ルニ任せテ、奢ヲ事トシ、上ノ令ヲ犯シ、剩へ上
ヲ怨ミ罵ルニ至ル、是猶夏虫ノ燈ニ付テ、人救ヒ
出セトモ、又飛來テ、終ニ燈油ノ中ニ命ヲ失フカ

如シ、下愚ノ至リ、哀哉、抑號令嚴ナル時ハ、愚民ト
雖、刑罰ヲ畏ル、故ニ、暫クハ其禁ヲ犯ス、ナ
シ、然レハ、上タル人少シク怠リテ、其禁弛フ、ナ
レハ、漸々ト舊ニ復シ、數年ノ後ニハ、其弊俗又以
前ヨリモ倍スルニ至ル、譬ハ、水ヲセキタル其防
キル、時ハ、水勢平常ニ數倍スルカ如シ、是以、俗
ニ公義ノ三日汰度ト云フテ、深ク畏ル、ナシ、
故ニ一時儉約ヲ行フハ難キ、ナニ非ス、唯永久相
續スルヲ以テ難トス、若永久相續セレトナラハ、

奢ニ流レス、儉ニモ過キス、中庸ノ所ヲ取リテ、制
度ヲ定メ、之ヲ守ラ使ムルニ如クハナシ、聖人ノ
語ニ、民可使由之、不可使知之トアリ、儉約トモ奢
トモイハス、唯ヨキ程ニ制度ヲ定テ、民ニ守ラシ
ムルハ、使由之ナリ、制度ヲ定メスノ、言語號令ニ
テ、儉約ノ理ヲ得心サセ、民ノ心ヨリ行ハ使メン
トスルハ、使知之ナリ、是聖人ト雖モ、能ワサル所
ナリ、故ニ今竊ニ自揣ラスノ、古人ノ遺意ヲ考ヘ、
制度ヲ定ルノ説ヲ左ニ録ス、

三戸

制度ヲ定ントセハ、先ツ民ニ差等ヲ立ヘキナリ、
古ノ時ハ、庶人ノ上ニ格別ノ差等ハ無シコレハ、
庶民ノ田地屋宅、皆定數有リ、上ヨリ渡リタル物
ニテ、私ニ賣買増減スルコトヲ得ス、故ニ民ノ身代
少シノ貧富ハ有レモ、大抵同等ナリ、後世ニ至テ
ハ、和漢共ニ豪強兼并ノ習ヒ起リテ、其富ル者ハ
王侯ニモコトヘ、貧者ニ至ハ立錫ノ地ナシ、故ニ齊
ク庶人ナレモ、自然ト貴賤高下ノ差等ヲナスコト

人君ト奴僕トノ如シ、然ラ、上ヨリ見レハ、畢意庶
人ナリトテ、之ヲ同一ニスルヲ、勢ノ行レサル處
ナリ、且富ル者ハ、上ノ用金ヲモ調達シ、凶年非常
ノ變有レハ、不足者ヲ賑スノ功アリ、然レハ、其身
ニ於テモ、衣服居宅ナト、少々自由ヲ致シタリト
モ苦カラヌ事ナリ、貧ナル者ハ、村中町中ノ厄介
ニナル事ハアレヒ、上ノ爲メ人ノ爲メニナルヲ
ハ無シ、然レハ、平日ノクラシカク、富者ト同様ニ
スル理ハナキナリ、此處ハ上ニモ一向慮ナキニ

ハ非ス、故ニ身分相應ノ諭告アレトモ、定制ナキ
ヲナレハ、人情少シニテモ人ノ上ヲ行レト思ヨ
リ、貧民モ富民ノ真似ヲスルナリ、左スレハ、富民
貧家ト一列ニナル事ヲ耻、又其上ヲ行レトス、是
風俗日々奢靡ニ赴ク所以ナリ、故ニ其階級ヲ嚴
ニシ、少シモ等ヲ越ルヲ叶ハサル様ニ定レハ、人
ノ真似ヲスル弊俗、自然ト息ヘキナリ、
古ヘ民ニ上戸中戸下戸ノ三等ヲ別ツテアリ、酒
ヲ飲ム者ニ其稱アルモ、其名目ヲ假リ用イタル

者ナリ、今時ノ所ニテハ、此ノ三ツヲ以テ、衣服其
外ノ制度ヲ定メ、然ルヘキナリ、且又古ヘ社倉常
平倉等ノ名目アリテ、米穀ヲ貯ヘ、非常ノ用ニ供
フル法アリ、今時モ貯ヘ穀ト云フアレ、名アリ
テ實ナキヲ多シ、因テ三戸ヲ別ツ次ニ、其法ヲモ
建立スヘキナリ、三戸ノ法、三都ナトノ豪商富民
極メテ多キ所ハ、猶外ニ良方アルヘシ、先ツ村戸
又在町ノ爲ニ、其説ヲ立ル者ナリ、
富ル者ハ少ク、貧ナル者多キハ、理ノ常ナリ、故ニ

千戸ノ町ナラハ、大畧下戸八百、中戸百七十、上戸
三十ト云ホトナルヘシ、故ニ下戸ヲ通例ノ民家
トミルヘキナリ、制度ノ法、下戸タル者ハ、少シノ
絹布モ用フヲ許サス、紋付ノ服ヲキルヲ許サ
ス、夏羽織、袴、脇指ノ類、一切之ヲ禁スヘシ、下戸タ
ル者、其家富ム時ハ、町役ニ願ヒ出、中戸ニ轉スヘ
シ、其時冥加金ヲ出シテ、米十五石ヲ買ヒ、社倉ニ
寄付スヘシ、既ニ中戸ニナリタラハ、繰入縞、并ニ
夏羽織ヲ許シ、又衣服ニ紋ヲ許スヘシ、其紋ハ家

ノ定紋ニアラス、中戸ト云シルシナリ、因テ◎此
ノ如キ者然ルヘシ、門ノ柱ニ、屋號并ニ主人ノ名
ヲ表札ニカケ、其上ニ此ノ紋ヲシルスヘシ、下戸
ハ表札ヲ小ニシ、至ノ名ノミヲ書キ、紋ト屋號ト
ヲ用ユヘカラス、中戸タル者、其家ニス〜富時ハ、
又町役ニ願ヒ出、上戸ニ轉スヘシ、其時ハ米三十
石ヲ社倉ニ寄附スヘシ、服ハ紬ノ類、絹布ノ下品
ヲ許シ、袴脇指ノ許スヘシ、其紋ハ◎重環シカル
ヘシ、是ニ等ヲ加ヘタルシルシナリ、是モ表札ニ

出スヘシ、

右ノ三戸、ミナ町役ノ方ニ帳面ニ控ヘヨキ、平日
出會ノトキ、上中下家格ヲ以坐列ヲ定メ、少シニ
テモ之ヲ亂ルヘカラス、サテ右ノ法、主人一世限
リニスヘシ、中戸タル者、主人死スルカ、隱居シテ
其子當主トナラハ、其時又米十五石ヲ出スヘシ、
若其手當テナクハ、暫ク下戸ニ賤シ、米ヲ納テ後
中戸ニ復スヘシ、上戸ハ家督初メニ三十石ヲ納
ムヘシ、若シ能ハサル時ハ、暫ク中戸ニモ、下戸ニ

モ賤シテ米ヲ納メテ後、舊ニ復スヘシ、
右衣服ノ制ハ、主人ノ一身ヨリメ、ソノ女房、嫡子、
隠居夫婦ニテハ、主人同様タルヘシ、次男以下、及
女子ハ、上戸中戸下戸ヲ分タス、皆下戸ノ通ナル
ヲヨシトス、若隠居中戸ニテ、當主下戸ニ落タル
ハ、隠居夫婦ハ、中戸ノ服ヲ用ユヘシ、隠居上戸當
主中戸ナルモ亦然リ、凡ソ奢靡ノ源ハ、皆婦人ヨ
リ起ル、故ニ必ス家格ノ通リヲ、固ク守ラシムヘ
シ、妻ノ服ニモ、夫ノ紋ヲツクヘシ、若男子ノ紋不

相應ニアラハ、何ナリトモ、上中下三等ノ別ヲ、
服ノ正面ニツクヘシ、其他描簪ノ類、皆三等ニ分
ツヘシ、

中戸以下ハ、替禮、葬禮、年頭等ノ表立タル儀式ニ
モ、決テ上下ヨ著シ、脇指ヲ佩ルヲ致スヘカラス、
下戸ニ於テハ、羽織モ亦然リ、但シ羽織ハ身ヲ温
ル爲ニハ、綿入羽織ヲ許スヘシ、是ハ紋ヲ付ス、又
紐ヲヨリナトニ致シテ、是ヲ分ツヘシ、又五十
以上身衰ヘ、寒氣ニタヘサル者、下著ニ帛物ヲ用

ルヲ許スヘシ、必ス上ニ出スヘカラス、若制度
ヲ犯スヲアラハ、罰ヲ施スヘシ、其罰他事ニ非ス、
輕重ニ從ヒ、社倉米ヲ寄附セシムヘシ、是ハ罰ノ
爲ナレハ、升進ニハナラス、如此スレハ、利害眼前
ニ明白ナル故ニ、吝嗇ノ徒モ、皆寄附米ヲ心掛ル
ナリ、

里正村長ノ類ハ、中下戸タリ氏、上戸ニ準スヘシ、
組頭ハ下戸タリ氏、中戸ニ準スヘシ、モシ役儀ナ
クテ苗字ヲ許サル、者アラハ、平日ハ役筋ノ者

ヨリモ上席タルヘシ、公事ノ時ハ、下席タルヘシ
上戸ニテ組頭ヲ勤メサル者モ、亦此例ヲ以テス
ヘシ、

屋宅ノ制ハ、屢改メカユヘカラス、故ニ三等ノ差
別ヲタテス、唯門柱ノ表札ニテ之ヲ別ツヘシ、且
衣服萬端ニツキ、上下ノ別已ニ明ナル時ハ、分ヲ
越テ屋宅ノミヲ高大ニスル望ミナレ、故ニ制ヲ
立ストモ、自然ト分限相應ノ所ヲナスヘキナリ、

名器

今時ノ俗、庶人タル者、勝手ニ苗字ヲ名ニリ、袴ヲ
着シ、脇指ヲ帶スレトモ、嘗テ其禁ナシ、政ヲスル
人ノ心ニ、是ハ奢靡ノ筋ニモ非ラス、富民ノ上ニ
テ、其分ノ一ハ害ナシトナリ、是古ヲ誓ヘサルノ
過ナリ、聖人ノ言ニ、唯名與器ト、不可以假人トア
リ、名ハ稱號ニ、苗字是ナリ、器ハ衣服類諸是ナリ、
袴脇指是ナリ、假トハ、元來其人ノ身ニ相應セヌ
一ナレトモ、當分カシヲクト云意ナリ、凡人ノ奢ヲ
ナスハ、已レカ耳目口腹ノ慾ニ供ユル爲ノニ

ハアラス、人ニ勝レカタメナリ、故ニ衣服ハ已レ
カ目ヲ悦レムル爲ノナラハ、平日美服ヲ用ユヘ
キ事ナルニ、家居ノ時ハ、粗惡ノ品ヲ用イ、外出ニ
ハ美ヲ盡ス、飲食居宅亦シカリ、皆人ニ誇リ示サ
ニカタメナリ、故ニ何品ニヨラス、人ノ尊フ所ニ
目ヲ着ル一人情ナリ、若紋付ヲキタル者ハ、イカ
ナル粗服ヲキタリト無紋ノ者ヨリハ上座ト定
ムル時ハ、人皆美服ヲ願スシテ、紋付ヲ願フヘシ、
袴脇指ヲ用ユルハ、庶人ノ最上ト定ムル時ハ、今

マテ衣服、居宅、娼妓、俳優ノ爲ニ擲シ、財ヲモ、儉約
シテ、社倉米ヲ寄附シ、其格ヲ求ムルナリ、故ニ苗
字、脇指、袴、羽織ノ禁嚴ナレハ、其位貴シ、其位貴ト
ケレハ、人皆美服、美食、美宅ヲ捨テ、其方ニ赴ク、是
奢ヲ禁セスシテ奢ヲ止ルノ妙法ナリ、兵法ニ避
實擊虚ト云フアリ、實トハ敵ノ心掛ル方ナリ、虚
トハ敵ノ油斷シタル所ナリ、喻ハ、敵我出城ヲ圍
ムフアルニ、之ヲ救ハスメ、敵ノ本城ヲ襲フニ、左
スレハ、我城ノ圍ハ自ラ解ルナリ、政ヲスルモ亦

然リ、奢靡ハ民ノ所向ナリ、專ラ之ヲ抑ユルハ、實
ヲ擊ツナリ、勞メ功少シ、格式ハ民ノ貧者セヌ事
ナリ、其方ニ手ヲマツセハ、自然ト、今マテノ所ヲ
離レテ、其方ニ赴クナリ、
苗字帶刀ハ、庶人分外ノ事ナリ、然レモ、功ニヨリ
テハ許サル、フアリ、但米穀金錢ノ員數ヲ以テ
定ムヘキフニ非ス、非常ノ功德アラハ、之ヲ許ス
ヘシ、

醫師

醫師ハ、僧家同様ニテ、諸事制外タルヲ、御公儀
ノ定メナリ、然ラハ、三戸ノ制ニ拘ルヘカラス、苗
字、脇指、絹布、羽織等、之ヲ用ユヘシ、席頃ハ、平日ハ
上戸ノ上席ニシテ、公事ノ時ハ、役筋ノ者ノ下ニ
ツクヘシ、凡ソ人ハ上輩ニアイシラヘハ、上輩ニ
ナリ、下輩ニアイシラヘハ、下輩ニナル者ナリ、醫
ハ司命ノ職ニテ其任重シ、氣象卑劣ナル時ハ、其
任ニ堪ヘス、故ニ三戸ノ制ヲ亂ルニ似タレ、凡、暫
ク國俗ニ從ヒ、之ヲ制外ニ置クヘキニ、但シ國ニ

ヨリテハ、醫師ハ村野ニアリテモ、土民ノ數ニ加
ヘス、諸事別格ニセシ所モアルニ、如此ナレハ沙
汰ニ及ハヌ、今我説ハ、制外ナカラモ、身分ハ
里正組頭ノ支配ニ屬シタル中ニ於テ、其差別ヲ
立ルニ、

醫師數多キヲ、當時ノ敬俗ナリ、醫師多ケレハ、病
家少ク活計ナリカタキニヨリ、本業ヲ指置、幫間
ノ業ナト勤ル者多シ、且病人ヲ經ルヲ少ケレハ、
其技老練スヘキ様ナシ、故ニ其株ヲ定メ、新家ヲ

始メ又様ニスヘシ、大抵百五十戸ノ地ニ醫師一人ト定ムルトキハ、千五百戸ニ十人一萬五千戸ニ百人ナリ如此ニメ、其方角ニ付テ組ヲ立ツヘシ、醫業ハ幼少ニテハ勤ニラヌ者ナレハ、其株必缺ルコト多シ、其時ハ其組中ニ名目ヲ預リ置、他方ヨリ入り醫、又ハ新ニ醫トナル者アラハ、其株ヲ買セ、其苗字ヲ相續セシムヘシ、カクノ如スレハ、醫ノ數フユス、且由緒正カラヌ醫者ナクテ宜シカルヘシ、醫師ハ制外トハ申ナカラ、三戸ノ制既

定リタル所ニテハ、一錢ヲ費サスシテ、上戸ノ上席トナル事、衆人ノ服セヌ處アルヘシ、且株ヲ定メ、他人ヲ禁スルコトナレハ、少シハ運上ヲモ出スヘキ理アリ、因テ冥加ノタメ、年々米一石宛ヲ社倉ニ寄付スヘシ、サスレハ、三十年ニハ三十石ニ及フユヘ、自然ト上戸同様ニナル理ナリ、是ハ其本業ヲ出精セシメンカ爲ナリ、モシ家貧シテ、其手當ナリカタキハ、極々流行ラヌ醫者ナリ、其拙技モ亦知ルヘシ、如此ハ、其株ヲ賣リテ變業スル

ニハシカス、

社倉

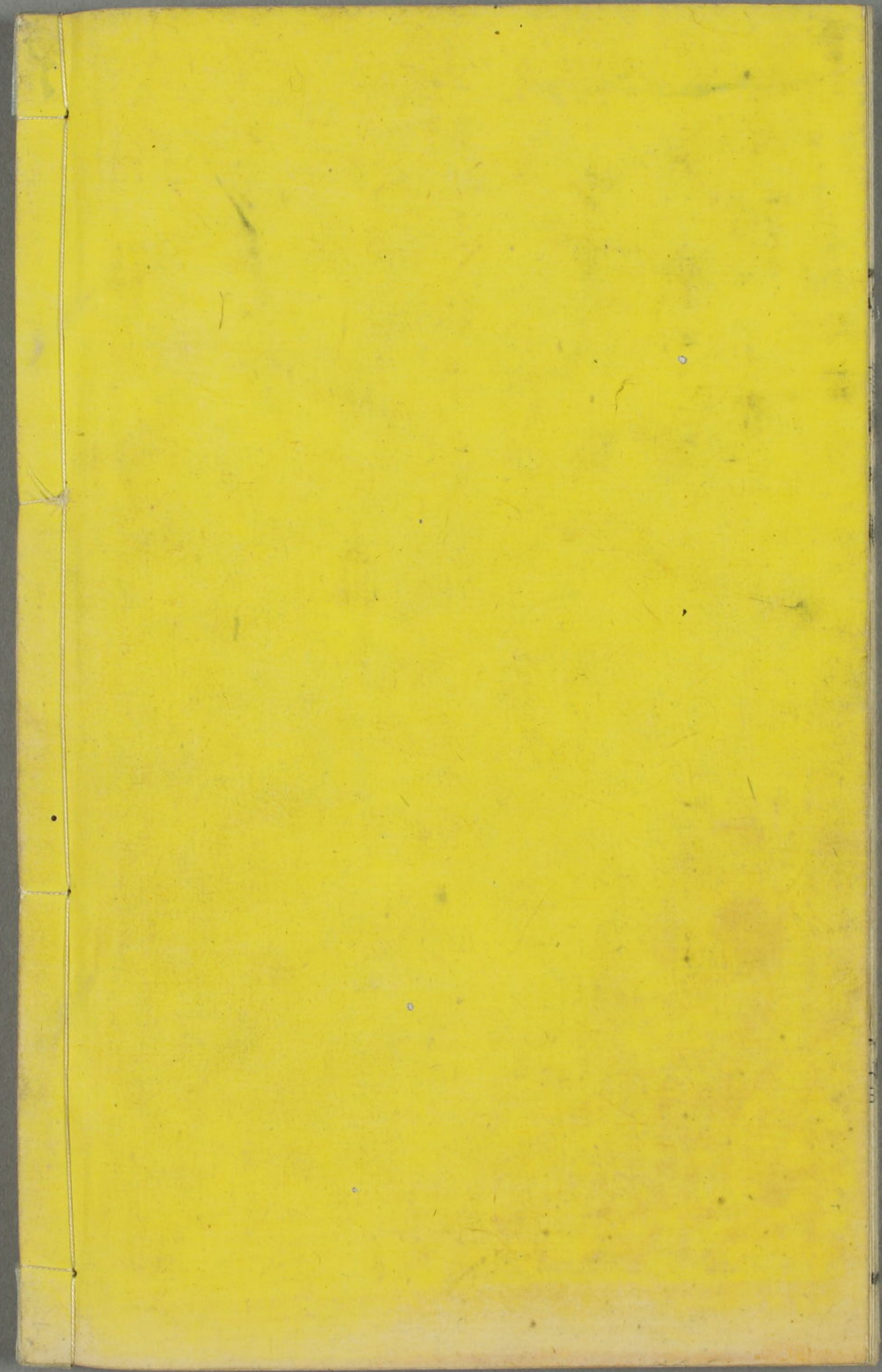
社倉ノ法ハ、和漢舊例アルナレトモ、今吾言フ所ハ、三戸ヲ別シカ爲ニ、米ヲ寄附セシメ、其米ヲ貯ヘタル處ヲ社倉ト名附ルナレハ、古ヘノ社倉トハ、名同ノ實ハ異ナル者ナリ、故ニ古法ニ拘ラズ、又新制ヲ立ヘシ其法ハ、先ツ然ルヘキ者ヲ擇テ、コレヲ司トラシメ、寄附米有ルニ從ヒ、之ヲ帳面ニ録シ、一年ニ一度ツ、之ヲツメカユヘシ、イツ

モ直ヒ高キ時ニ賣リ拂ヒ、卑キ時ニ買入ヘシ、サスレハ、少々ツ、ノ利徳アリ、其中ヨリ、雜費ト役料トヲ差引キ、殘ル所ハ、米ノ高ヲフヤスヘシ、若年々ツメカユルノ煩シクハ、モミニテ貯ヲキ、數年ノ中ニツメカユヘシ、サテ凶年ニイタリ、米價大ニ貴ク、諸民困窮スル時ハ、右ノ米ヲ出シテ、直ヲ減シテ之ヲ賣ルヘシ、如此ニシテモ、買入レシ時ノ直ニ比スレハ、勝リタルナレハ、米ノ員數ハ本ヨリモフユヘシ、右ノ如ナレハ、年々中戸上

戸ノ者、家督并外進ニ付テ寄附アリ、出シ入レニ
付テ利分アリ、益スヲアツテ減スルヲナシ、故ニ
千戸ノ社倉ナラハ、久カラスノ、米五六千石ニモ、
萬石ニモ及フヘシ、近クハ凶年ノ備ヘ、遠クハ國
家不虞ノ用ニ供センヲ、豈莫大ノ利益ナラスヤ、

迂言附録 終

猶就
主人



予年十有四歲而有欲學詩之意
負笈遠尋沙 徘徊豐 沅之間遂
入廣門先從白 侯始居一年
餘邊想楚 堂有 高 子 母 在 省
之 後 安 政 戊 午 秋 七 月 再 進 百
園 先生 既 然 不 得 學 詩 故 因 賦 六
種 以 為 學 詩 之 師 日 秋 誦 讀 之 矣

柳莊詩書